

人 50 女にとつて仕事とは…

田巻 礼子 さん
大田町 三十七歳

「TO K I (とき) の会」という働く女性たちのグループが三年前に新潟でできた。始めたメンバーの一人が黒崎町にいる。田巻礼子さんだ。「二十年仕事をしてきて辞めなくてよかった」と言う田巻さんに「女にとつて仕事とは」を聞いてみた。

「もうすぐ私、四十になるんです。四十代に何をすればいいか、考えています。何年たつても同じ仕事、同じ自分というのはいやです。高校卒業後、新潟地方索道協会という、索道(ロープウェイやリフト)会社が組織している協会に入り、一般事務、スキー関係の保険、協会報の編集などに携ってきました。

「女性の仕事がなくなるんです。自分で仕事を見つけたら、作つていかなければ、男性と同じように仕事が終わって来ない」。山と溪谷社から「スキーガイド」(千六百円)が発行されているが、編集は協会が田巻さんの仕事だ。最初の企画から編集、広告の宣伝とりまで、「協会として正しいスキー場の情報を提供する必要があると考えたからやったのです」。熱心だ。考え



「働く女性にとって、今は必ずしも働きやすい環境とはいえないけれど…。考えてみれば、70、80のおばあちゃんたちはずっと働きながら家事や育児もやってきた。たくましく思う。私たちが負わずに頑張りたい」と田巻さん。「仕事は…厳しい。そしてやりがいがある」と言う。

「TO K I の会の会員は現在二十人。職種はさまざまだ。会社を設立する人もいる。学習会や講演会を開いてきた。女同士のネットワークを広げています。話をすれば、

「ご主人は政一さん(四十一歳)。夫であると同時に仕事の相談役でもある。夫に妻が自分を犠牲にして尽くす関係ではないです。子供は三人。育児や家事、ご近所づきあいはおばあちゃん、おじいちゃんに頼りぎみです。週二回は帰宅が遅い。家事より仕事の方が大事だなんて思っています。子育てはものすごく大切だと思っています。私の場合、経済的に仕事を辞めるわけにはいきませんでしたから。」

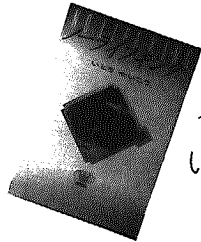
今春から社会へ出る若い女性にひとこと——「同期に入社した男性社員からライバル視されるようなOLに、それは現実問題、難しいのですが、なるよう頑張りますよ。」

(I E)

まだまだ男性社会と痛感しますね。でも、我々の世代あたりから男性も変わりつつありますね。」

ほんの一冊

ノーライフキング
いとうせいこう・著
(新潮社)



近ごろの子供は何を考えているのかわからない、と言われていたようです。でも昔も今も子供たちは変わってはいないのでは…。この本では最近のコンピュータ・ゲームのブームと、電話をはじめとするメディア網の発達を背景に、昔と変わらぬ不安定で原始的(迷信的)な心の持ち主である子供たちの近未来(現在?)の姿が描かれます。日本全体を結んだ子供たちの情報の網。そこでかわされるのは子供らしい会話なのですが、日本全体に広がっているために思いもよらない巨大な影響力を持ってしまう。子供たちの不安が、恐怖が、全国へすっと広がってしまう恐ろしさ。この本を読むと子供たちの心はわからなくとも、子供たちの未来について考えさせられます。(M)

〈人の動き〉

12月末現在 (前月比)		〔前年同月比〕	
人 口	23,118 (+21)	[+274]	
男	11,366 (+5)	[+119]	
女	11,752 (+16)	[+155]	
世 帯	6,124 (+7)	[+112]	
12月1日～末日			
出生	21	転入	51
婚姻	10	転出	50
死亡	5		



3月号は
昭和63年度決算
についてお知らせします。

下水道、福祉などのアンケートをまとめています。3月号以降に取り上げていく予定です。

2月5日町長選挙・町議会議員補欠選挙の投票日だったので、2月号は選挙結果を早く町民の皆さんに知っていた方がいいように、発行日を少し遅らせました。この号が届くのは、「平成」という新しい(?)時代を迎えてちょうど一カ月を過ぎたころになる。「昭和」が「平成」となると何が変わったかと思つてまわりを見ても、特にこれといった変化は感じられない。「平成」を意識するのは役場が文書を書いたりするときくらいなものだ。日常生活の上では別に意識することもない。まだ、「昭和」の延長ではない。しかし、「平成」にならなかつた直後、金融機関などは大変なつたようだ。友人のプログラムは、一週間ほど徹夜で年号のプログラムを直さなければならなかつたという。便利はずのコンピュータも人間様の都合で厄介なことになつてしまったわけだ。もちろん、しわよせは弱い立場の人間にいく。今のところ「平成」になつたからといって、時代の流れに大きな変化は見られない。しかし、ある時点を区切りにバツと時代が変わつてしまふというの怖いことだ。変化は起るなら徐々に起る方がいい。それなら、修正もきこうというものだ。(しかし、いつのまにかいやな時代になつてしまった、なんてこともないかねい)生きていく限りは、その時代を読み、悔いのない行動を選択したい。

(I)

